



九州・沖縄


9 団体

佐賀県立伊万里農林高等学校

みどりか麺プロジェクトチーム

新商品の販売促進による放置された間伐材の削減

私たちは放置される間伐材を減らし、この森林環境の課題を解決できないかと考え、活動を始めました。昨年度、私たちは小麦の麺にねぎパウダーを練り込んだみどりか麺の商品化を実現しました。今年度、新商品の販売促進のために、間伐材を利用した彫刻看板を作製することにしました。完成した彫刻看板を地域の道の駅に設置させていただくことで、お客様へ商品の印象を強化することができました。




長崎県立諫早農業高等学校

生物工学部

地域在来農産物復活プロジェクト

平成27年度から、地域在来農産物の復活に向けて取り組みを開始し、これまでに県内6種類の在来農産物の栽培に成功し、各種イベント開催などPR活動も全国に向けて行うことができました。このよう中、対馬高校から対馬の在来農産物“対蕎麦”の復活とPRIについて依頼を受け、スプラウト化に挑戦し3ヶ月間実験を繰り返し栽培に成功しました。今後もさらに活動を広げていきます。




長崎県立対馬高等学校

ユネスコスクール・科学部

地域と連携したツシマウラボシジミの保護活動

対馬市役所等と連携し希少野生動植物種である「ツシマウラボシジミ」という対馬固有亜種のチョウの保護に取り組んでいます。今年度は幼虫の食草を本校敷地内で栽培し、計120株を対馬市の保護区へ植栽しました。保護区内では昨年植栽した苗の成長を観察し、成虫1匹、蛹8匹、さらに卵も確認することができました。また、遠隔システムで長崎県立諫早農業高校と意見交換も行いました。




熊本県立南陵高等学校

Team.水土林★

球磨モンの水土林Project★～人吉・球磨発!水と郷土と緑を育む故郷環境保全活動～

水土林Project★は、故郷の財産である水資源や郷土愛、森林・林業に着目し、地域から地球環境の保全に繋げようとする研究に取り組んでおり、「地域資源を磨き上げ、より良い自然環境を創造すること!」「人吉・球磨から世界へ環境保全の輪を広げること!」を研究目標に地域に根差した活動を行っています。今後も、高校生の地域に根差した取り組みを継続させ、SDGs実現に必ず結びつけていきます!




福岡県立伝習館高等学校

自然科学部

絶滅危惧種ニホンウナギの水槽から生命に支えられた持続可能な社会を展望する

2014年にニホンウナギを絶滅危惧I B類に指定した時から研究と活動を進めています。現在までに柳川掘割と飯江川に約6800尾の稚魚を標識放流しましたが、飼育中に多くを感染症で死亡させてしまいました。様々な実験と試行錯誤の末、飼育中の水槽にクスノキ落葉を入れると感染症にウナギが罹らなくなり初期死亡が減少することを発見しました。持続可能な環境が維持されていることが示唆されました。




長崎県立五島高等学校

nature班

ジオ爺が舞い降りる

私たちは若年層のジオパークに対する認知度を高められるような「ジオパークをテーマにした教育コンテンツの開発」を行うことを目標に活動してきました。五島市の身近な自然を題材に、ポスター、漫画を作成しました。完成した教材は、五島市立岐宿小学校、五島市の広報誌やYouTubeの「ジオチャンネル」で配信を行い、島内だけでなく、他県の人へも広く五島の自然の魅力を発信しました。




長崎県立諫早農業高等学校

食品科学部

規格外みかんが生み出す新たな地域興しと廃棄物の再利用

地元の伝統菓子諫早おこし、長崎みかんのPRのため、両者をコラボさせ「みかんおこし」の開発を行い、令和元年に商品化を達成した。令和2年2月、長崎県特産品新作展で「長崎手みやげ大賞」を受賞し、全国へPRされている。加工の際に生じる果皮などは、検証の結果、廃棄物を用いた子実体の菌床栽培に利用できることを突き止め、令和2年3月、発明の名称「子実体栽培方法」で特許を取得した。




熊本学園大学付属高等学校

NEXT NEXUS

熊本の食品ロス熊本のため、地球のためにどう生かすか

SDGsの「作る責任、使う責任」に注目しました。また熊本地震や人吉豪雨災害の復興のためにも活動したいとも考えました。そこで、地元の青果店と菓子店に協力いただき、食品ロスを集め、マフィンへ加工しました。実際に10月に熊本市街地で販売を行い、400個を約1時間で完売しました。また11月にその販売会の利益を熊本市長にもお会いして寄付贈呈式を行いました。今後も活動を続けたいと思います。



鹿児島県立薩南工業高等学校

ESD研究班

持続可能な社会のために何をするべきか

持続可能な社会を考える視点を持たせる活動をテーマに行っている。1つ目は、廃棄と付加価値。生産活動や消費で発生する廃棄物の処理・処分、リサイクルを含む3Rを考える。2つ目は、地域。地域の産業との関連を考えたり、身近な資源を素材に新奇性を試みたりするものづくりの取り組みである。3つ目は、伝える。現在の課題解決に必要な能力育成と課題を単純化しない市民の育成が求められる。

